

**優しく 賢く 仲良く ～そんな温小っ子に 私はなりたい！～**

学習発表会の「おわりのあいさつ」で、6年生が「雨ニモマケズ（温小バージョン）」の見事な群読を披露しました。

雨ニモマケズ 風ニモマケズ  
雪ニモ 夏ノ暑サニモマケヌ  
丈夫ナカラダヲモチ 慾ハナク  
決シテ瞋（いか）ラズ  
イツモシヅカニワラッテキル (中略)



有名な宮沢賢治の詩です。宮沢賢治の没後、遺品を整理している時、賢治愛用の黒い手帳に鉛筆で書かれていたものが発見され、世に出されました。宮沢賢治が、自分の生き方を模索し続けた末に手帳に記したものであることがうかがい知れます。だからこそ、日本人はもちろん、世界中の人々の心をとらえて離さないのでしょうか。

6年生は全文群読した後、温小バージョンとして最後に次の言葉を付け加えました。

ダレニデモ優しく ダレヨリモ賢く ダレトデモ仲良く  
ソナナ温小っ子ニ 私ハ ナリタイ

どの学年も心をつにして発表を頑張り、最後は6年生の力強い「雨ニモマケズ（温小バージョン）」で学習発表会をしめくくりました。これを契機に、これからも一層「優しく 賢く 仲良くできる温小っ子」になれるよう、学びの成果を生活や学習に生かしていきます。ご家庭におかれましても、励ましの声かけをよろしくお願いいたします。

**「思いやり」とは「豊かな想像力と豊かな感性」～町人権研修会より～**

様々な人権課題（右図の氷山上部）がありますが、根（氷山下部）はどれも偏見・差別意識であり、この氷山を溶かすには、「豊かな想像力と豊かな感性に裏付けられた『思いやり』の心」という海水が必要であること。「それでも僕は桃を買う」という数年前の中学生の人権作文では、福島産の桃が避けられている出来事から、「福島産の桃に偏見を持ち、差別する行為は、桃だけにとどまらず、福島の人々を差別していることにもなる」というお話がありました。



11月2日の人権参観日・講演会をはじめ、学校では教育活動全体で人権教育に取り組んでいます。今後も人権意識を高め、実践力のある温小っ子の育成に努めます。

**11月24日（いいにほんしょく）は「和食の日」でした**

和食は、2013年12月にユネスコの無形文化遺産に登録されました。和食は自然にも人にも優しい食事であり、日本が世界に誇る食文化です。実際に、日本食レストランが世界中に広がっているということです。

和食の素晴らしさは数多くありますが、代表的なものとして以下のことが挙げられます。

- 1 一汁三菜…栄養バランスが良く、健康的な食生活  
⇒ご飯を中心とした汁物、おかず、漬物の組み合わせ
- 2 ダシ …多様で新鮮な食材と素材の味わいを活用（油、塩分の少ない料理法）
- 3 郷土食 …地域の自然の美しさや季節の移ろいの表現
- 4 行事食 …正月など年中行事との密接な関わり

和食に欠かせないのが、箸です。児童は正しく持てているでしょうか。裏面に、その図を載せています。正しい箸の持ち方が「美しい持ち方」であり、一生の財産となります。学校給食でも指導しますが、ご家庭でもよろしくお願いいたします。